

★ 五條市地域公共交通計画で定める評価指標と評価の基準

視点	目標	評価指標		評価の基準		考え方 (設定根拠・算出方法)	備考
				現状	目標 (R8 年度)		
まちづくり	(1) 地域公共交通 の維持・改善	① 地域公共交通の人口カバー率※1		89.8%	89.8%	・住む場所や年齢などに関係なく利用できる地域公共交通の環境を維持・改善する。	令和３年１１月時点
		② 拠点施設への乗り入れ本数	JR 五条駅	104 本/日	104 本/日	・市の活力を支える拠点へのアクセス性について、現状のサービスを確保する。	令和３年１１月時点
			五條バスセンター	150 本/日	150 本/日		
	(2) 地域公共交通 の利用促進	③ 地域公共交通に対する満足度 (不満を持っている人の割合)		48.5%※2	38.0%	・地域ニーズに応じたサービスの提供により、不満を持っている人の割合を概ね 10 ポイント引き下げる。	令和３年度アンケート
	(3) 脱炭素社会の 推進	④ 人口に対する地域公共交通の利用率 (人口に対する路線バス、市が運行する地域公共交通の利用者数の割合)		5.8回/人・年	6.3回/人・年	・人口減少が見込まれる中、地域ニーズに応じたサービスの提供等により利用者数の維持・増加を図り、1 人あたりの利用回数を 0.5 ポイント引き上げる。 (推計される人口減少が続いた場合にも、総利用者数の減少の割合を人口減少の割合に対して半分程度に抑える。)	利用者数：令和２年度実績 人口：令和３年３月末実績
市民	(4) 地域公共交通 に対する理解 の醸成	⑤ 地域公共交通に対する認知度	路線バス	72.8%※3	100.0%	・地域公共交通が、市民の移動手段の選択肢として位置づけられるよう、それぞれの手段について「全く知らない」とする市民をゼロにする。	令和３年度アンケート
			コミュニティバス	73.0%※3	100.0%		
		⑥ 人口に対する地域公共交通の利用率（再掲）		上に同じ	上に同じ	-	-
交通事業者	(5) 担い手の維持・確保	⑦ 五條市で地域公共交通を提供する交通事業者数		４社	４社以上	・市民が生活に必要な地域公共交通サービスを今後も受け続けられるよう、提供環境を確保する。	令和３年時点
行政	(6) 持続的なサービスの提供に向けた効率的・効果的な運行の実現	⑧ 市が経費負担する地域公共交通※4 の 1 便あたりの利用者数	路線バス※4	3.9 人	3.5 人以上	・幹線的な役割を担う系統として、おおそ自家用車やタクシー以上を運ぶものとして設定	令和３年度実績（推定）
			ゴーちゃんバス	-	4.0 人以上	・ただし、路線バスについては、山間過疎地域へ向け運行する路線につき、現行の実績をもとに、10%程度の減を許容する。	令和３年 11 月 10 日に再編を行った直後のため、実績値なし。
			上記以外 (ただし予約制のものは除く)	-	1.0 人以上	・最低人数の 1 人は運ぶものとする。	
		⑨ 市が経費負担する地域公共交通※4 の 1 人あたりの運行経費		-	※右記参照	・財政面への影響を考慮し、効率的・効果的な運行の実現に向け、現状の収支状況を維持することとし、概ね令和３年 11 月の再編後の各路線の実績値以下とする。(10%程度の増を許容する。)	

※1 地域公共交通の人口カバー率：鉄道駅から 800m もしくはバスやデマンド交通に乗降できるスポット（停留所、自由乗降区間内の任意地点）から 300m のエリアを地域公共交通がカバーするエリアとして定義
※2 地域公共交通に対する満足度：「令和３年度 公共交通に関するアンケート調査」で、市内の地域公共交通について「やや不満」「不満」と答えた人の割合
※3 地域公共交通に対する認知度：「令和３年度 公共交通に関するアンケート調査」で、それぞれの地域公共交通機関について「全く知らない」と答えた人を除く割合
※4 市域を跨ぐ地域幹線（広域路線バス及び五條・十津川地域連携コミュニティバス（広域通院ライン））は、奈良県地域交通改善協議会で定める指標に基づき評価・検証が行われるため、本計画では評価の対象から除外